

千葉県内の都市公園におけるグランドカバーのマネジメントに関する研究
-基礎自治体による植栽管理に関する実態把握-

日本大学 学生会員 ○門脇 暦
日本大学 学生会員 田中 尚吾
日本大学 正会員 永村 景子

1. はじめに

近年，環境意識の高まりや SDGs への取り組みにおいて，身近な公園や広場といった公共空間が緑豊かな環境として維持されることが期待される一方，グランドカバーの管理には費用や労力がかかる印象が強く，とりわけ基礎自治体が管理する公共空間において，導入の障壁となる場合がある。また，国土交通省等によるガイドラインには，芝生の育成目標イメージに沿った管理内容やランニングコストの目安が記述されているが，実際の芝生の状態と照合するための基準が曖昧でわかりづらい¹⁾²⁾。そこで本研究は，基礎自治体が管理する都市公園において，適切なグランドカバーのマネジメントの要点を整理することを目的とする。本稿では，先行研究にて行ったアンケート調査をもとに，現地踏査，ヒアリング調査の結果から各自治体のグランドカバーの現場状況や管理実態の詳細を把握し，比較・考察していく。

2. アンケート設計及び結果

アンケートは，グランドカバーの維持管理実態を把握するため，選択・記述式の質問を最大 37 問で構成し，依頼・回答期間は 2021 年 10～12 月とした。

アンケート対象は，千葉県内の基礎自治体のうち首都

圏整備法の指定区域³⁾である千葉県の 25 自治体⁴⁾を抽出し，都市公園の管理を所掌する部署に調査依頼したところ，14 件の回答があった。14 件中芝に関する回答が 11 件，芝以外のグランドカバーは 4 件（1 件は芝と重複）であった。なお，紙面の都合上，芝以外のグランドカバー結果は割愛し，芝生の草刈り回数，植栽維持管理費について公園ごとにまとめたものである。

(1)年間の草刈り回数

草刈り回数について図 1 に示す。7 回以上と回答した自治体 6 件のうち 5 件は総合公園であり，1 件は G 市の

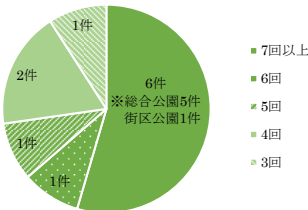


図 1. 年間の草刈り回数

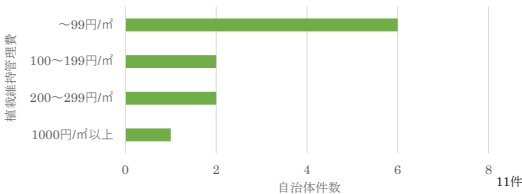


図 2. 年間の植栽維持管理費

表 1. 現地踏査一覧(☆：ヒアリング調査済)

☆：ヒアリング済	A市	B市	C市(☆)	D市(☆)	E市	F市(☆)	G市
目標とする状態	1(高い)	2(普通①)	4(低い)	2(普通①)	3(普通②)	3(普通②)	1(高い)
自治体評価	1(高い)	3(普通②)	3(普通②)	3(普通②)	3(普通②)	3(普通②)	1(高い)
12月 (冬)	評価	1(高い)	2(普通①)	3(普通②)	4(低い)	4(低い)	2(普通①)
	状態						
6月 (春)	評価	1(高い)	2(普通①)	3(普通②)	2(普通①)	4(低い)	3(普通②)
	状態						
8月 (夏)	評価	1(高い)	1(高い)	3(普通②)	2(普通①)	4(低い)	2(普通①)
	状態						
11月 (秋)	評価	1(高い)	2(普通①)	3(普通②)	4(低い)	4(低い)	1(高い)
	状態						

キーワード グランドカバー，都市公園，緑地管理

連絡先 〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1 日本大学生産工学部

表 2. 芝生修景状態ランク表

基準 (2021年度)	内容	1(高い)	2(普通①)	3(普通②)	4(低い)
		主要な広場や施設周りなどで修景性が高く、芝生の美しさが重要な景観構成要素となり、良好に管理すべき芝生地	広場や施設周りなどのうち、修景性が中程度で、芝生の緑が一景観構成要素となり、良好に管理すべき芝生地	2に準ずるランクで、予算の制約上、管理水準を下げ単一草種を維持するための最低限の管理を行う芝生地	法面など土壌保全あるいは、草地化を目的とした芝生地で、緑を保持するための最小限の管理を行う芝生地
基準 (2022年度)	草丈の均一性	○	○	×	×
	裸地	○	○	○	×
	雑草	○	×	×	×
基準 (2022年度)	例	 G市・8月	 D市・8月	 C市・8月	 E市・8月

街区公園であった。G 市を除けば、地区公園以下の都市公園の草刈り回数は、6 回以内に留まる。

(2)年間の植栽維持管理費

植栽維持管理費について図 2 に示す。最低金額の「～99 円／㎡」の回答が最も多かった。管理項目を照合すると、一つの自治体を除き灌水と肥料散布は行われていない。以上より、多くの自治体が、管理項目と費用負担を必要最低限に設定していることがわかる。

3. 芝生修景状態の評価基準の設定

芝生の育成イメージに沿った管理状態について把握するため、先行研究では、国営公園における標準的な芝生管理ランク表²⁾を用いて芝生修景状態ランク表を作成した(表 2 上段)。

4. 現地踏査の実施

現地踏査は、公園の管理状況について実態を把握するため、季節ごとに現地踏査を実施し、現地踏査時点における芝生修景状態を独自に評価した。対象とする公園は、先行研究にて現地踏査を行った公園 11 件とする。本稿では、管理状態及び評価の類似した公園や芝以外の管理をしているグラウンドカバーの公園は割愛し、7 件の公園の現地踏査結果を示す(表 1)。

5. 自治体による芝生の修景状態評価の検証

各公園の芝生の修景状態について、自治体評価と現地踏査により筆者らが評価した修景状態を照合し、自治体による管理状態の評価の妥当性について検証する。

現状「1(高い)」と評価した A 市、G 市の公園は、年間を通してほぼ単一のグラウンドカバーが裸地もなく維持されていたことから、自治体による評価は妥当であるといえる。また、現状「3(普通②)」と評価した B 市、F 市の公園は、管理状態から春(6 月)に比べて夏(8 月)の現地踏査による芝生修景状態ランクが高くなった。これは、夏季の現地踏査を行う直前に草刈りが行われていたことに起因すると考えられる。

6. 芝生修景状態ランクの再設定

現地踏査により、一律の基準で各公園の管理状態や修

景状態を把握することができた。一方、アンケート調査での自治体による評価と、現地踏査により筆者らが評価した評価に差異が生じていた。したがって、現場で得られる視覚情報から、管理状態を客観的かつ的確に評価するために芝生修景状態ランク表を見直した。評価項目として、草丈の均一性・裸地・雑草の混在状況といった、修景状態の印象を整理した判断基準を用いて再設定した(表 2 下段)。

7. ヒアリング調査の実施

ヒアリングは、公園・広場の現場状況や管理方針、管理実態の詳細を把握するため、表 1 の☆がついている C 市、D 市、F 市に 1 時間程度行った。芝生修景状態評価の考え方について伺ったところ、D 市では目標値「1(高い)」を目指して管理したいが、予算的に困難であるため「2(普通①)」とし、現状値は「3(普通②)」と回答していた。C 市、F 市は、目標値・現状値ともに「4(低い)」、「3(普通②)」と回答していた。

8. おわりに

本研究では、季節ごとに現地踏査を行ったことで、各公園の管理状態や季節における芝生修景状態を視覚的に把握することができた。また、現地踏査を踏まえた上で視覚情報による客観的な評価基準が重要であると考え、項目を用いた評価基準の再設計をすることができた。アンケート調査、ヒアリング調査の詳細につきましては、本稿では紙面の都合上、割愛し、講演時に紹介する。

謝辞: アンケート調査やヒアリング調査にご協力いただきました、柏市、千葉市、八千代市等の皆様に、記して謝意を示します。

参考文献:

1) 芝生のチカラを活かしたまちの CORE(コア)のつくり方
<https://www.mlit.go.jp/toshi/park/content/001338582.pdf>
最終閲覧(2023.4.3)

2) 公園・緑地維持管理研究会 公園・緑地の維持管理と積算
平成 28 年 12 月 20 日 P148

3) 国土交通省 - 大都市圏整備 - 首都圏整備計画
<https://www.mlit.go.jp/common/001128802.pdf>
最終閲覧(2023.4.3)

4) 政策区域の構成市町村名一覧 (平成 28 年 4 月 1 日現在)
<https://www.mlit.go.jp/common/001150744.pdf>
最終閲覧(2023.4.3)